

第4回名古屋市生徒会サミット 2016 実施報告書



■日時：2016年10月29日（土）10:00開始 17:00終了

■場所：名古屋市昭和区御器所通3丁目12番の1

御器所ステーションビル

名古屋市高齢者就業支援センター 5階 大会議室

第4回名古屋市生徒会サミット 2016

■主 催 NPO 教育支援協会東海

■共 催 名古屋市教育委員会

■後 援 名古屋市立小中学校校長会
名古屋市

■協 力

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社はじめ、地元企業サポーター数十社

■参加校 13校 62名

<p>①防災</p> <p>八王子中学校 山田東中学校 長良中学</p>	<p>③いじめ撲滅</p> <p>大曾根中学校 日比野中学校 宝神中学校</p>
<p>②環境</p> <p>田光中学校 志賀中学校 円上中学校 守山東中学校</p>	<p>④SNS リテラシー</p> <p>志段味中学校 御田中学校 御幸山中学校</p>

■ファシリテーター（敬称略）

・中学生ファシリテーター

八王子中学校 一色優歩 横山朋紀
田光中学校 原悠貴
円上中学校 鈴木穂乃佳
大曾根中学校 伊東晴海
志段味中学校 黒下千尋



・高校生ファシリテーター（高校生実行委員会）

新田海斗 伊藤彩乃 辻さくら 西尾太一 小林亜優 甲斐田真希

■大学生サポーター

山縣広晃 秋山浩器

■ディレクション

NPO 教育支援協会東海 専務理事 西尾真由美

■趣旨

名古屋市の次世代リーダー達が一堂に集い、他者や地域のことを真剣に考え、未来の名古屋に貢献できる真のグローバルリーダーを育成する。

■内容

中学生生徒会役員として自分たちにできることを、4つのテーマ（防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー）の熟議を通して、より具体的な実践を生み出していく。

サミット終了後の実践を通して、次世代リーダー達の挑戦を発信していく。

■日程

時間	内容
9:30 10:00	<p>受付開始 オープニングセレモニー</p> <p>■主催者あいさつ NPO 教育支援協会東海 代表理事 本多 功</p> <p>「皆さん、お休みなのにこんなにたくさん来ていただきましてありがとうございます。おはようございます。私共が主催する名古屋市生徒会サミット、今回は62名の中学生の皆さんにお集まりいただきました。誠にありがとうございます。</p> <p>～（動画）デレク・シヴァーズ 『社会運動はどうやって起こすか』 TED.com より～</p> <p>「この動画には、ムーブメントが起きる本質のようなものが表れています。皆さんに賛同して付いてきてくれる人、一緒に行動してみたいなと思ってくれる人（フォロワー）が出てくると、ムーブメントになるわけです。今年の生徒会サミットでは、「チュー祭」という中学生フェスティバルをしたいとのアクションプランが出ました。これは久屋大通公園を借り切って、中学生だけで企画した大きなイベントをやりたいという夢のある企画です。まだまだ皆さんにはそこまでの力はなく、実現するためには多くのハードルがあるでしょう。でも、この場では、夢でも構わないので、そういったことをどんどんぶつけてほしい。そして私たちは、この生徒会サミットを通じて、皆さんが将来の名古屋、あるいは日本、そして世界のリーダーになってほしいと思っています。そのために、今日はリーダーになる子もいれば、フォロワーになる子もいるでしょう。それから、学校に持ち帰って、それぞれの学校の友達を巻き込んで、フォロワーを作って、小さなムーブメントを起こす、それもいいでしょう。そのような会だと思ってください。私たち大人は、あくまで君たちが主人公で、君たちが真剣に名古屋のために何かをやりたいと思ったとき、自分たちだけでは困ったな思ったときには、真剣にサポートしたいと思います。今日は一日よろしくお願ひします。」（一部省略）</p>
10:10	<p>■アイスブレイク</p> <p>グループごとでチームになり、自己紹介ゲームをしました。高校生実行委員会が見本を見せています。初めて会う人同士でも一気に打ち解けます。</p>



10:30

熟議前半 開始

テーマ：「4つのテーマで熟議をしよう！」

1 防災 2 環境 3 いじめ撲滅 4 SNSリテラシー

テーマごとに課題を出し合い、模造紙にまとめていく。熟議は各テーマの高校生ファシリテーターと中学生ファシリテーターが協力して進めていく。



11:45

テーマ別発表：各テーマのエリアで前半に話し合ったことをグループ発表して共有する。



12:00

昼食休憩 熟議グループで昼食をとり、親交を深めました。

ポッカサッポロ&ビバレッジ株式会社から今年も飲み物の差し入れが届きました。



12:45

熟議後半 開始

■メッセージ紹介

名古屋市生徒会サミットに寄せて

本年も、名古屋市生徒会サミットが開催されますこと、心からお喜び申し上げます。また、志ある中学生の皆さんが今日ここに大勢集まっていることに、大きな期待を感じます。

私は、文部科学省でいじめ問題を担当しています。いじめは簡単にはなりません、絶対に許されないことです。私たちも日々、いじめ問題に全身全霊で取り組んでいますが、生徒である皆さん自身が、すぐ身近にあるいじめに「気づき」、解決しようと「行動」することが、非常に重要です。今回の議論のテーマには、いじめも含まれていると聞いていますが、いじめに限らず、全ての問題の解決にあたって、一人ひとりが「気づき」「行動」することが最も大切だと思います。そして、一緒に問題に立ち向かう仲間がいれば、自分ひとりだけでは経験できない「気づき」の深まり、「行動」の幅の広がりを感じることでしょう。生徒会サミットは仲間とともに気づき、共に行動の具体的実践に向けて考える、素晴らしい機会だと思います。若い中学生の皆さんも、学校の一員であり、立派な地域社会の一員です。卒業すれば、選挙に行ける18歳になるのもすぐです。これからを担い、素晴らしい社会を作り上げていく主役は、皆さんです。今日のサミットでの皆さんの活動成果が、名古屋の、愛知の、中部の、そして日本全体の希望に満ちた未来につながっていくことを強く期待し、私からのメッセージとさせていただきます。

平成28年10月29日

文部科学省児童生徒課長 坪田 知広（元愛知県警少年課長）

■熟議前半の講評と熟議後半に向けてエールをもらう。

京都造形大学教授 寺脇 研 氏（元文部科学省 審議官）

「ところで、先ほど私を含めたおじさんたちで話していたら、今日来ている子は皆21世紀の生まれだという話題になりました。21世紀生まれということは、21世紀をほとんど生き抜くということです。みんなが100歳まで生きたら、22世紀までみえてくる。我々は21世紀まで生きてきて、21世紀生まれの中学生のサポートをしているように、みんなは22世紀まで生きて、22世紀が、どんな時代になるのかというところまで考えて欲しいです。これから平均寿命がどんどん伸びていくので、ひょっとしたら皆さんの半分くらいは22世紀まで生きて行くかもしれません。そして少なくとも、君たちが生んだ子供は、22世紀まで生きる。その未来を頭において、今日のテーマを考えて欲しい。私は日本中の中学生にいろいろな話をしている、そこでいつも話すのですが、皆さん、「勉強」という言葉と「学ぶ」という言葉を使いますよね。この二つの意味は同じでしょうか。みんな違うと言います。ではどこが違うんだろうか。勉強というのは、嫌なこともある、やりたくないときもある。でもやらなきゃいけない。でも、学ぶのが嫌だという人はまずいない。ということは、学びというのは自分がやりたい、学びたいことを学ぶということ。実は、中学、高校の間は勉強というものが必要なんだけど、大学に入ってから勉強というのは必要ない。大学は学びたいことを学ぶために行くところだからです。自分の行きたい学部に行って、自分の取りたい科目をとるわけだから、「学び」の場なんです。ですから、中学、高校は、大学で自分が学びたいことを学ぶために基礎的な力もつけないといけないから、勉強というのが必要だということでしょう。さて、午前中に意見を出し合い、午後これから深めていく熟議は、勉強ではありませんね。これは学びですよ。みんながこの生徒会サミットに参



加したいと思ったから参加しているんですよね。そしてそれぞれのテーマについて議論したいと思っている。それは自分で勝ち取る学びというものなんです。勉強というとドリルを解いたり、黒板をノートに写したりするのをイメージするけれど、「学び」というのは今日のような話し合いや、私の京都芸術大学で漫画や映画について学んだりすることも含まれます。こういう学びで取り扱うテーマというのは非常な大きなものになっています。「君の名は。」を見た人はいますか？この映画は確かに、高校生たちのいろいろな心が描かれているけれども、一方で彗星落下という防災をテーマにした映画でもあります。また「シンゴジラ」であっても、防災、そして環境が問題になっていたりします。「聲の形」ではいじめがテーマになっていて、SNSが劇中で大きな役割を果たしています。まさに今大ヒットしている映画で描かれているようなテーマを皆さんは議論しているわけです。これらは映画の中ではただのストーリーの一部に過ぎませんが、現実はそのいきません。そういう問題が実際に起こったときにどうするのか、今日は議論を深めて、それをそれぞれの学校の生徒会活動にも活かして欲しい。そしてその後、高校、大学に行ったとき、社会人になったときにどうなるのか。こういうことも含めて考えてもらえるといいなと思います。そういう意味で、今はこのテーブルで議論していますが、「遠い先には22世紀が見えるぞ」というような気持ちで議論をしてもらいたいと思います。熟議というのは、何を言ってもいいです。どんどん広げていくと、それが学びの場としても広がっていくと思います。今日は1日、これが終わったときに「今日は学んだ！」とつくづく思えるような日にしてほしいと思います。」（一部省略）

13:00

テーマ：「熟議を深めよう！」

各テーマグループで前半の熟議を深めていく。



15:00

テーマ：「4つのテーマごとに熟議の内容をまとめよう」

全体発表に向けて、テーマ別でひとつのチームになり、話し合いの内容をまとめる。



16:00

全体発表

4つのテーマ毎のチームから熟議の内容と、実践に向けた行動計画を発表する。

【防災チーム】

●Aチーム

「これから防災について話します。

防災訓練は、普通に行うのではなく、予告なしで行ったり、先生がいない放課後に行ったりすることで、真面目に取り組まない人や、自己判断ができない人が、自己判断ができるようになったりすると思います。そして、この防災訓練を

企画した人たちで、防災訓練が終わった後に反省をすることで、次の訓練を行うときや、実際に被災したときに、いい結果になると思います。次に火事についてです。火事は、周りの環境を整えるなど、火がつかないように物を配置して、火事を対策することができると思います。そして、消火器の使い方を知っている人が少ないと思うので、実際に使ってみたりすると、知識が足りない人にも知識が付くと思います。台風では、強い風で飛んでくると危ないので、飛びやすいものを片付けたり、ポイ捨てを少なくしたりすると思います。地震では、防災ブックの作成や、怪我の手当の仕方、ハザードマップの作成、これまでの地震の振り返りやこれからの地震の理解、防災グッズの使い方を知ることで、防災意識が高くなると思います。これから生徒会としてできると思うことは、生徒集会で、防災について劇を行い、印象に残る説明ができると思います。新聞ポスターの作成によって、劇では伝えきれなかったイラストや写真を使い、劇とは違う良い印象を与えることができると思います。学校に消防士の人たちを読んで、消火器の使い方を学ぶことで、実際に火事が起きたときにすぐに行動できるようになると思います。」



●B チーム

「私たちは、防災の中でも、防災の意識を高めるための防災ウィークというのを作ってみました。防災ウィークを行う理由は、防災の意識を高めてもらうため、一週間強化週間を設けることで脳内に強くインプットする、そして、私たちだけでなく地域の人たちにも防災意識を持ってもらうことです。防災ウィークで行える内容は、まず避難経路で下校すること。これは、経路を日頃から確認することによって、実際いざ動くときにサッと動けるように、頭に印象に残すためです。次に体験学習では消火体験や着衣水泳、AEDの体験などを行いたいです。



着衣水泳は、地震や台風以外の洪水などの水害で役に立つと思い、企画しました。次の補強という部分では、棚の下に新聞を敷くことによって倒れにくくする工夫や、手前に引く扉にクリップを引っ掛けることによって、簡単に開きにくくすることです。実際災害が起きたときに開きにくくなったことを想定して日頃からそれに慣れるためです。次のスリッパを置くというのは、学校だけでなく家でもスリッパを置いて、もし窓ガラスなどが割れて足元が危険なときに役に立つからです。次に、2日間で学校の体育館に来てもらい、地域の方と防災について学ぶというのを計画しました。これは後で詳しく話します。次に、学校や地域のお店で募金を行い、自分たちが募金をすることによって、他の被災地の方々への支援を行い、それが自分たちの身近にあるものなのだと知ってもらいたいからです。最後に、非常食を地域の方に配布するというのは、もし今までの食事を続けて急に非常食を食べると言われても困ってしまうかもしれないので、非常食がどんなものなのかを地域の人に知ってもらい、それを体験してもらいたいからです。2日間で体育館に来てもらうというのは、中学校の校舎や校庭を使って、スタンプラリーを行い、防災について楽しみながら学んでもらうために考えました。みなさん、学校に避難用の滑り台があるのを知っていますか。それをゴール地点に設置するというルートにしてみました。これは、みなさんがなかなか使ったことがないもので、使ってみたいと思っているかもしれないので、考えてみました。そして、この防災ウィークのために生徒会としてできることは、この防災ウィークの存在を知ってもらうために、ポスターを人目のつくところに掲示したり、防災ウィーク後にアンケートを取り、分かりづらかったことなどの反省を行い、次に生かしたり、わからなかったことは集会などで紹介したいと思います。」

●C チーム

「防災ブックについてです。制作の目的は、家族の集合場所や、避難箇所を確認するためや、災害に備えるためです。方法は、生徒会で有志を募集して行います。手書きで書きます。分かりやすく、楽しく見られるように、写真やイラストを用います。避難訓練など、説明の後に配った方が、より読みたいと思ってもらえると思うので、そのときに配ります。



内容は、家族との集合場所や、連絡先を書き込みます。学区内のハザードマップを作って、より分かりやすくより細かくします。簡単な怪我の手当の方法などを載せることによって、救急車が来なくても自分たちでできるようにします。また、防災グッズの使い方を載せることによって、あるだけで使わないと意味がないので、それを解決します。そして、身の回りのもので活用できるものを紹介します。例えばダンボールなどを組み立てれば、簡単なベッドになるなどです。これで防災の発表を終わります。」

【環境チーム】

「これから発表を始めます。環境のグループは、大きく分けて3つのテーマに分けて話し合いました。1つ目が地域のゴミをなくす活動について、2つ目が学校の外の人との連携について、3つ目が身の回りの環境についてです。」



●地域のゴミをなくす活動

「まずは、ゴミ箱の設置数を増やすことについて提案します。私の学校の場合は、通学路にタバコの吸殻やコンビニのレジ袋のゴミなどがたくさん落ちています。そこで、中学生が作ったダンボールのゴミ箱を設置したいと思います。しかし、ただ単にダンボールを並べていくのではなく、2つ1セットで設置し、例えば有名なサッカー選手の写真を貼り、「あなたはどちらを選ぶ?」という、ゴミを1票に変えるようにしたいと思います。そうすれば、楽しんでゴミを捨てることができると思います。次に、着ることがなくなった衣類のゴミの処理について提案したいです。皆さんも卒業し、いらなくなった学ランやズボンなどといった制服、または他の衣類を学校に寄付してもらって応援団で使ったりすれば、布として再利用ができ、なかなか難しい衣類の処理が楽になり、ゴミが減らせると思います。私たちは、地域のゴミを減らすために、中学校で行っている地域清掃を活性化することを提案します。なぜなら、ポイ捨てをする人が多いからです。そのためにできることは、ポスターなどで呼びかけて、地域の方々と清掃すること、意見箱を利用し、清掃活動の意見を行うこと、私たち生徒会役員が率先して、ゴミを拾うことで、綺麗に保つことではないかと考えました。地域の方々と清掃活動を行うことによって、清掃場所も大幅に拡大されると思います。さらに、人手が増えることによって、隅々までしっかりと掃除をすることができると思いました。」

●学校の外の人との連携

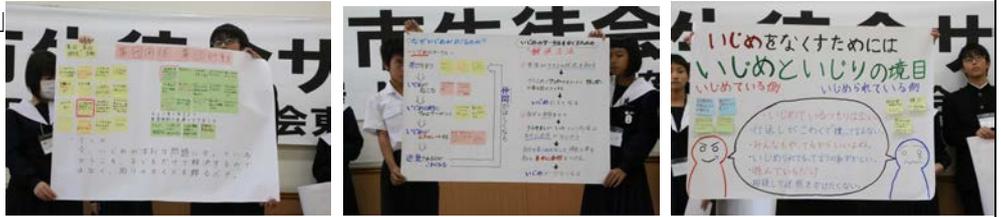
「私たちは、学区の環境を良くする上で、生徒会だけでは難しい取り組みを、学校外の人や組織と連携して行うためにはどうすればいいかについて話し合いました。まず私たちは、連携する団体を大きく3つに分けました。1つ目は、学区内の小学校です。小学校と連携するには、定期的に小学校の代表と会を開き、意見を交換し合うと良いという意見が出ました。2つ目は、学区内の行政機関です。3つ目は、その他の団体です。この2つの団体とは、生徒会執行部になったときに、全員揃って挨拶に行き、顔と名前を覚えてもらい、連絡を取りやすくしておくという意見が出ました。これらを実行して、地域と生徒会とのつながりを良くしていくことで、生徒会として活動できる幅が広がると思います。」

●身の回りの環境

「私たちは、学校環境の改善について考えました。問題点として、いじめや不登校などが挙げられます。そこで、これらの問題を解決するためには、より過ごしやすく、温かい学校を、そしてより良い人間関係を作ることが必要であると考えます。生徒同士、生徒と先生が仲の良い、そんな学校を作ることができれば、不登校やいじめも自然と無くなっていくのではないのでしょうか。そのためには、私たちには何ができるのかを考えていくことが大切です。まず、不登校の原因に、いじめを受けても相談ができず、一人で抱え込んでしまうことがあります。最初に、朝の挨拶運動です。先生と生徒だけではなく、生徒同士でも挨拶をすることができれば、絆が深まるのはもちろん、悩んでいるときに気軽に相談できるようになります。また、生徒同士の仲をより深めるために、校内奉仕活動を行いたいと思います。例えば、環境を良好とするために、新しい植物を植え、先生と生徒で協力して育てていくことや、球技大会を合同で行うなど、コミュニケーションを図り、温かい学校にしていきたいと思います。以上です。」

【いじめ撲滅チーム】

「発表を始めます。私たちは、いじめ撲滅について、3つのグループで1つずつのテーマに絞り、まとめました。A、B、Cのグループの代表者から、それぞれの進行状況について発表してもらいます。」



●Aグループ

「僕たちAグループは、集団関係、集団行動で起こるいじめについて話し合いました。まず、なぜいじめが起こるのか話し合いました。一例を出すと、人が多いから意見が合わず、いじめが起きていくという議題が出ました。それに対し、好み合わないなら他のみんなで共通の好みを作っていけばいいという解決策が出ました。その中でも、今回の話し合いを通し、僕たちは「大人」というキーワードに注目しました。そもそも、いじめというものは子供を中心として起こっているものが多いです。もちろん、なんとかしようとしている人もいますが、未成年ということもあり、自分たちで解決することが難しいという部分もあると思います。そういうときこそ、周りの大人を頼るべきだと思います。僕たちの身の回りだけでも、家族、学校の職員の方々、スクールカウンセラーの方などたくさんの大人たちがいます。そういった周りの大人たちに頼りつつ、僕たちも、いじめを防いだりするにはどうすればいいか考えていくことが重要だと思いました。」

●Bグループ

「私達Bグループは、リーダー格、いじめを起こす人と、そのフォロワーとなる周りの人をテーマに話し合いました。話し合いを進めていくと、いじめのサイクルというものが見えてきました。それは、最初は小さいいざこざから始まり、悪口のみであったのが、いじめる側にフォロワーがつき、過激ないじめへと変わり、やり返されるのが怖くなり、またさらにいじめをしてしまうというものです。私たちは、そんな悪循環を無くすためには、先生や生徒がいじめへの関心を高めることが必要だと考えました。クラス内でアンケートや話し合いを行うことで、いじめへの理解が深まり、いじめを起こすはずだった人やフォロワーになるはずだった人は、いじめの重さを知り、いじめを実行に移さなくなると思います。この方法でいじめが完全になくなるわけではないと思いますが、みんなが自信を持つことで、「やめなよ」の一言が言えるようになり、同じ意見を持った人がフォロワーとなり、いじめに反対する人が多くなれば、今よりいじめは少なくなると結論付けました。」

●Cグループ

「私たちのグループは、いじめといじりの境目をテーマにして考えました。いじめている側は、いじめているつもりがなかったり、「みんなもやっているから」「遊んでいるだけ」と軽い気持ちで考えていたり、いじめられる側は「仕返しされたら嫌だ」「いうのが恥ずかしいから」「友達に迷惑をかけたくない」と思っていたりします。この解決策は、いじめている人は人の気持ちを考えて行動したり、自分がされたときにどう思うかを考えて欲しいです。いじめられている人は、自分が一番相談しやすい人に言ったり、嫌なことははっきり嫌だと言ったり、勇気を出すことが大切です。他の人も、周りの人を気遣い、いじめられていると気付いたときにははっきり止めることや、悪口を言われていたら「大丈夫？」と声をかけるだけでもいじめがなくなることに繋がります。」

「このようにA、B、Cグループでの進行状況を見て、Aグループでは子供だけでなく大人にも頼ることが大切だということ、Bグループでは先生がクラスの状態を知ることということ、ア

ンケートや話し合いの場を設けること、Cグループでは自分が一番相談できる人に頼るとい
うことが出ました。実行できることは、実現していきたいと思います。アンケートや話し合
いの場を設けるということは、実行できると思います。そこで、先生方にもご協力をお願いした
いのですが、アンケートなどに書かれた内容を読んでいただき、様子を見てもらいたいです。
まずは予防という形から入っていき、いじめを減らしていきます。次に、いじめ撲滅までつな
げていきます。ここまでで大事なことは、いじめられている人にアンケートに記入する勇気
を持ってもらうことと、頼れる人にちゃんと行って欲しいということです。頼られた人は、い
じめをなくすために先生方に相談してみてください。大事な友達や仲間を守るために協力をし
てください。学校に帰ったときに、以上のことを実行してほしいです。そこで、私たち生徒会
だけでは実行することが難しいと思います。なので、先生方に頼んでください。先生方の力が必要
です。よろしくお願いします。今では、いじめによるニュースも多くなっています。些細な
ことでもいじめにつながります。そのいじめが悪化すると、自殺という選択をしてしまう人も
います。このことをしっかりと意識して欲しいです。自ら命を絶ってしまう人は、命を落とす
勇気があったということです。この勇気を生きる勇気にして欲しいです。世界でたったひとつ
の命です。生きていれば、辛いことや悲しいことだけではなく、楽しみや喜びもあります。その勇気を、命を落とす勇気に変
えるのではなく、誰かに相談する、心を開く勇気に変えていって
欲しいです。私が今、一番ここで言いたいことは、一人ひとりの命を大切にしたいということ
です。一度絶ってしまった命は、生き返ることはありません。以上のことも真剣に考え、
生徒会から少しずつ動いていきましょう。」



【SNS リテラシーチーム】



●個人情報

「私たちは、SNS リテラシーについて考え、個人情報、親しい人とのトラブル、違法サイト、
依存症の4つのグループに分かれて熟議しました。私たちはSNS リテラシーの中の、個人情
報について話し合いました。この話の原点は、個人情報はどのように不正に流れてしまうのかと
いうことです。原因として、中学生は悪いことをしているという自覚がないことなどが挙げら
れました。全校に伝えるのは、生徒会新聞や集会などでやってはいけないことを伝えていき
たいです。」

●親しい人とのトラブル

「私たちのグループは、SNS を使った対話によるトラブルについて話し合いました。トラブ
ルが起きる原因としては、考え方の違い、制限やルールがないこと、文字しか送れないことな
どが挙げられます。それにより、勘違い、個人情報の流出、人間関係のトラブルなどにつな
がります。解決策は、相手がどう受け取るかを考えて、確認してから発言すること、使い方や
ルールなどを作ることです。一番大切なのは、みんなが問題点を知った上で、いろいろな人が
いることを理解しながら使うことです。そのために、SNS について生徒集会や、お昼の放送な

どで聞いてもらう、プリントや生徒会新聞などを読んでもらう、アンケートや話し合いの時間を作り、考えてもらうなどして伝えていけると思います。」

●違法サイト

「僕たちの班は、違法サイトへのアクセスについて話し合いました。まず、違法サイトへアクセスしてしまう原因は、大きく2つ、SNS への知識が足りないことと、一人での対処が難しいことが挙げられます。この対策として、詳しい人に聞く、広告の多いアプリはやめる、無視をするということができます。そういったことを知らない人が多いため、生徒集会で発表したり、アンケートをとったりして、情報を広めていきたいとします。」

●依存症

「私たちはまず、依存とは何なのかというところから考え始め、依存症になるまでには2つのルートがあるということを見つけました。一つははじめから、居場所が欲しいために SNS に依存してしまうというルート、もう一つは、使いすぎて周りとの会話が減り、現実に居場所がなくなっていってしまうというルートです。しかし、解決の方法は意外と身近にありました。家族や友達との関係を良くするために、まずは小さいことから、挨拶をして会話のきっかけにし、信頼関係を作っていくことが大切です。もう一つは、充実した生活を送ることです。そのためには、楽しいと思えることを見つけることが大切です。小さいことを一つ一つクリアしていけば、この依存という問題を解決していけると思います。」



「この4つの問題を学校に持ち帰り、実践に向けて生徒会の先生たちと話し合ったりして、全校に今日熟議したことを伝えて、より深く考えあっているようにしたいです。これで SNS リテラシーの発表を終わります。」

16:30

エンディングセレモニー

■高校生実行委員会ファシリテーター 新田海斗君の言葉

「皆さん、今日はお疲れ様でした。今日の生徒会サミットを見ていて、僕が一番良いと思ったことは、皆さんの話し合いの中で「自分の学校でやるのは無理かな」、って声が一度も聞こえてこなかったことです。難しいと初めから諦めることなく、その難しいことをどうやって実現するかということ、一人ひとりが真剣に話し合い、そしてしっかりと発表してくれました。しかし、その結果をただ自分の



学校に持って帰っただけでは、アクションプランは実現できません。まずは生徒会執行部で話し合い、内容を自分たちでしっかりと確認し、その後に全校集会などで他の生徒たちに向けて発信していかなければいけません。アクションは全校生徒で起こす必要があります。そのことを強く意識して欲しいと思います。正直、初めてのサミットの運営というものに挑戦して、当初はどんな雰囲気が進むかなと少し不安に思っていました。でも、実際に始まったら、みんなが本気で話し合い、必死に模造紙にアクションプランを書いて、「やりたい」という気持ちが伝わって来る最高のサミットでした。しかし、もう一度言いますが、自分学校の生徒全員に伝えてシェアするまでが生徒会サミットです。また月曜から、どう伝えていくか、どうアクションを起こしていくかを考えていきましょう。では最後に。「お疲れ様」というと、終わってしまうみたいなので、これからも頑張りましょう！！おー！！」

■講評 NPO 教育支援協会代表理事

文部科学省中央教育審議会委員 吉田 博彦 氏

「みなさん、今日はお疲れ様でした。今日一日みなさんの姿を見せていただいて、このように若い人たちがいろいろな形で話し合っていることの素敵さを、また改めて感じさせていただきました。特に、一番良かったのは、話をしている人に対しての皆さんの目線が優しくかったことです。少し聞きたいのですが、自分は学校で浮いて



いるという人はいませんか。実は、私が話をしても誰も聞いてくれないんだよねってこと、きっとあると思うんだけど、実は、浮くということはとても大事なことです。そして、自分の問題意識をどう相手に伝えていくかというときに、一番大事なのが、仲間がいるということです。今日一番最初に話があったけれど、こういうところに来て、自分の仲間を探すというのがとてもものすごく大事なことで、今日のように話を聞いてあげたり、逆に聞いてもらったりという仲間ができてくると、それがゆっくりと自分の成長にもつながっていきます。そのために、校内だけではなく、外にも仲間を作っていくためには、こういうサミットも大事なんだと思います。今日運営をしていただいた高校生の皆さん、本当にありがとうございました。昔は大体、1年や2年先輩だと先輩風を吹かすんですけど、そんなことはなく、同じ目線に立って話そうとする。やはりそれは、以前から生徒会サミットをやってきたということがあるからだと思うんですが、とても皆さんの目線や対応の仕方が優しくていいな、とっていて見ていました。高校生からも話がありましたが、話し合いというのは、行動の一番初めの部分で、その後どうするかという問題が大きくなってきます。今日例えば、それぞれの話し合いの結果があると思うが、そこで終わりではなくて、そこから考え始めなくてはいけないことがたくさんあると思います。例えば防災グループでは、予告なしにやるのがいいという案がありましたが、これはいろいろなところで言われていて、3.11の時に君たちの同世代の生徒が70人近くなくなった石巻の大川中学校と、逆に全員が避難した釜石の鶴住居小学校話などがあります。そういうことまで学んでもらいたいです。そうすれば、予告なしに自分の頭で行動することの大切さがわかると思います。実は、鶴住居小学校では、防災の中で「自分の頭で考えろ、想定を信じるな」という形で訓練をしていて、全員が助かりました。先生の指示に従うということしか習っていなかったところが、うまくいかなかった。環境の問題も、寺脇さんがおっしゃっていましたが、今世紀にとっては最大の問題でしょう。先ほどのゴミの問題とか、ゴミを出さない方法について出ていましたが、これについても学んでもらいたいことがあって、例えばイギリスは焼却炉55か所、アメリカは400か所あるが、日本は1200か所もあって、ゴミの量は他の先進国の約10倍も出しています。それをどうするかということは、今日のゴミを減らすという議論の先に始まる学びだだと思います。いじめの問題に関しては、「いじめサークル」というものが出ていました。初めは悪気なしで始めたことが大きくなっていく。この話では、悪い奴と良い奴がいて、悪い奴が良い奴をいじめるというイメージが出てくるが、そうではないといういいところに気づいています。なぜ、そのいじめのサークルみたいなものが広がっていくのか。「人の気持ちをわかった方がいい」という話もたくさん出ていたが、ではどうすればわかってもらえるのか。これも、これからの学びがスタートするということだと思います。SNSの問題では、文字で伝わることは少ないという話が出ました。そうなんです、言葉できついことを言おうと思っても、なかなか言えないですが、文字では簡単に言えてしまい、受け手側の影響も全然違ってくる。そうすると、コミュニケーションって一体どういうものなんだらうって疑問が当然話し合いの中から出てくると思います。そのように、人が話し合うこ

とで自分の問題意識が出てきたら、それを学んでいき、学んだ結果また話し合い、人と共有していくということが必要になってくるんじゃないかと思います。そういう意味で言えば、今日の皆さんのこの話し合いは、皆さんのこれから先に向けてのスタートとなるのだろうなと思っています。環境グループで出ていた、「行政がイチョウの木を植えることに対して、臭いからやめてくれと生徒会として再検討を要望した」という話を聞いて、基本的なことは素晴らしくよく出来ているな、と思いました。昔は、行政が植えると言ったらその瞬間に「植えちゃうんだ」で終りになったところを、自分たちで要望を言う。さらに、それが自分たちの勝手な要望にならないように提案をしないといけないという話が出てきていました。こういう思考が育ってきていることは、とても大事なことで、文句を言うだけではなく代案を考えていこうという考え方が出てくるのであれば、おそらくこれから皆さんが生きて行く21世紀の苦難を克服していくことができるでしょう。そのために、今日のように自分たちで話し合い、解のないところに自分たちで答え作っていくという作業を、大人になってからも繰り返しやっていかなくてはいいでしょう。そのときに、今のような思考回路で議論ができるのであれば、間違いなくうまくいくと思いますので、ぜひこれからも続けていただけたらと思います。

最後に、今日一番いいと思ったのは、いじめの話をしているときに、「先生が見て見ぬ振りをする」といったように、先生に対して批判的な意見が出てきているときに、「先生も大変だよ、体罰もできなくなってきた」という話が出てきていた。こうやって、人や物事を否定するのではなくて、その裏側にある本質を見て、また考え直す。これが「話し合う」ということなので、今日そういう側面を見ながら、本当にいいものを見せていただいたなと思いました。一日中これだけ話したり考えたりしたので、疲れたと思いますが、自分の中に残った何かをうまく活かしていただければと思います。私からの講評は以上です。今日一日、ありがとうございました。」（一部省略）

16:45

■集合写真1



■集合写真2



17:00

終了

■おわりに

ふるさとを大切に思い、利他の精神をもってふるさとのために貢献する、そのためには「自分は独りではない」という「絆」を胸に行動できる「日本の未来を担う青少年」を育成すべく継続している名古屋市生徒会サミットも4回目となりました。

サミット終了後に書いてくれた中学生の事後の感想文では、「7時間があったという間だった」「楽しかった」「良い経験ができた」という内容が多く、主催者としても大変嬉しく思っております。

以下は、62名全員が書いてくれた事後の感想文から一部抜粋させていただき、ご紹介させていただきます。

<参加者からの感想>

■「私はSNSリテラシーの問題について話し合いました。依存性というテーマに絞ってグループの3人で熟議しました。最初は4:30まで話し合いなんて本当にできるだろうかと不安もありましたが、SNSについて話し出したら止まらず、ほぼ休みなしにずっと意見を交わすことができました。グループの2人は私が意見を言う時も否定せず、真剣に聞いてくれて思ったことをすぐ言える、そんなとても良い雰囲気だったと思います。果たしてどの程度が依存なのか、原因や解決策はあるのかなどについて詳しく話し合いを深めることができました。まとめの発表準備では模造紙の記入係として要約しながら見やすく書くように工夫することもできたと思います。全ての熟議を終えて私たちのグループは3人全員がそれぞれの意見を主張し、認め合えるそんな良い雰囲気だったと思います。他の防災、環境、いじめ撲滅の発表を聞いて、共感できる部分や取り入れたいことをたくさん見つけることができました。とってもあっという間で実りある1日だったと思います。これを学校に持って帰って全校生徒に伝えていけたらいいなと思います。」

■「今日一日、他の中学校の代表の人たちと話し合いをして私はたくさんの意見を聞くことで自分の考えを見直すと共に、新たな考えにたどり着くことができました。今回私は環境について話し合ったのですが、さまざまな考えにふれ合うことができ、そんなこともあるのかと気づくこともできました。今日話し合ったことを学校で発表し、もっと考えを深め、地域とのつながりを強くし、生徒会だけでなく、全校生徒と地域の人全員でアクションを起こしていこうと思います。何か困ることがあっても今日のことを思い出して、力に変えていこうと思います。生徒会サミットは初めてでしたが、もう一度参加することができるならぜひ参加したいと思える内容の濃いものにすることができ、本当に嬉しいです。このサミットを開いてくださったみなさんと、一緒に考えてくださったファシリテーターのみなさん、そして中学校生徒会のみなさん、支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。」

■「私たちと同じ生徒会執行部という立場の人たちと一つの熟議を最終的にアクションプランとして一緒に考えられた事はとても貴重な経験だなと思っています。いろいろな意見を出して、「こうしたらこうなるんじゃないかな」「こうしたほうが良いと思うよ」と、工夫に工夫を重ねて、より良い結果に結びつけられるように頑張りました。最初は、しっかり話して付いて行かなきゃ、付いて行かなきゃという思いで精一杯でしたが、いつの間にか普通に意見を言えるようになり、すごくやりがいのあるものでした。最初の TED でリーダーも大事ですが、そのあとに付いていくフォロワーも大事だと言っていました。今回の生徒会サミットで、私はどちらの立場もなることができたと思っています。今回決めたアクションプランは心の中だけでとどめておきたくない、自分の意思で心の底から思います。未来のいい世界がつくれるよう、今日学んだことはぜひたいにいろいろな人に伝えて行きたいです。今日のことを教訓にこれからも精一杯頑張ります。」

■「今日参加して自分たちの学校と他校の違いや特色がよく分かった。その違いや良いところなどをシェアして、心が通じた気がした。自校を良くしていくのはもちろんですが、他校や地域との関わりを大切にすることも大切なことだと改めて感じた。なかなか普段は熟議することがないので、新鮮な感じでした。いつもは経験できないことができて、今日学んだことを自分の武器にしていけたらいいと思う。また、今日学んだのは防災の知識だけではなく、初めて会った人たちと、どう仲を深めていくのか、どう話し合いを進めていくのかというのも学ぶことができた。今回生徒会サミットに参加して本当に良かったです。貴重な体験ができた。」

■「初めての生徒会サミットと初めて会う人たちに、最初の方は緊張したけれど、会話をしているうちにだんだんと緊張もほぐれていきました。僕は防災について熟議をしました。防災については、学校の行事として考えたことはあるけれど、自分から防災のために行うことを考えるというのは初めてでしたが、活発に意見を言うことができたと思います。僕たちのグループは主に防災 week について考え、どうしたら楽しく防災について学べるかを考え、普段の活動では出すことのできない意見をどうしたら実行できるかなど、学校とは違う話し合いができ、とても有意義な時間にすることができました。今回の話し合いでまとまったことを学校に持ち帰り、何らかの形でできたら良いと思っています。来年、もし参加できたならば、次回はファシリテーターとして違う立場で関わってみたいです。」

■「今日は日頃体験することのない良い経験ができました。学校生活の中で今日ほど皆が真剣にひとつの議題について考え、様々な意見を出し合うことはないと思います。よく耳にする「いじめ」という言葉。具体的にはどんなものか、無くすためにはどうすれば良いか他校の役員と意見や知識を出し合い、まとめ、発表することは理解を深めることができたのはもちろん、実行に移すためにはどうすれば良いかも話すことができました。このような素晴らしい場に参加できたことを誇りに思い、これからも役員として自覚を持ち、より良い学校作りに努めていきたいです。」

■「7時間も話し合ったとは思えないほど、あっという間でした。私は SNS を使っていないので、分かるかどうかすごく心配だったけど、グループの人も優しく、すごく楽しく学びました。今日学んだことをきちんと覚えて、集会などの時に全校生徒に話せるようにしたいです。少し疲れたけど、それ以上に達成感や、楽しさがあるので、次回も参加できたらいいなあと思いました。」

■「とても楽しかった。学校でこういうことをしても、「何そんなにまじめにやっちゃってんの？」とか言われてあまり楽しくできていなかったけど、今回は皆が「やろう！」と思っているメンバーだったので楽しめた。私のできることと言えば今回みたいに意見を出したり、考えをまとめたりすることだけなので、少しは力になれたと思う。今回みたいな考えを深めたり、答えのない問題の答えを出すのは好きだし、得意だったので、次またあればやりたいなと思った。高校生の方がすごくおもしろくて、皆の前ですごくハキハキと話していたのを見て、あんな風になりたい！と思った。協力してくれる人がたくさんいて、いい体験だった。」

中学生の参加者のみなさんには長時間でしたが、熱心に参加してくれて、生き生きとした瞳が活動を楽しくしてくれている様をもの語っていると感じました。感想にもあったように、また参加したいと希望してくれているみなさんのためにも、このサミットは末永く継続していきます。これから自校で全校生徒に発信したり、実践に繋がったりして行くことになりますが、「出会った仲間もきっと頑張っている」という「絆」を胸に頑張りたいと思います。

また、今年度は、昨年度までに中学生生徒会として参加した6名の高校生が「高校生実行委員会」を立ち上げ、サミットの企画・運営に参画してくれました。夏休みからミーティングを重ね、熟議の進め方などを話し合ってきました。その中で、高校生実行委員会は「中学生に熟議を楽しんでもらえるように」「高校生は中学生の話し合いの場を支える」という基本的なスタンスを共有し、講評してくれた吉田博彦氏の言葉にもあったように、当日もその共通の理念は随所にあらわれていたと思います。サミット終了後に寄せてくれた高校生たちの感想（以下参照）でも、自分が参加したときに感じた「話し合うことの楽しさ」を後輩たちに伝えたいと書いてくれていました。

<高校生実行委員の感想>

■「私は自分が中学生のときに参加して感じた「互いに意見を出し合いながらより良いものをつくりあげていく喜び」を、自分が中学生に伝える立場になりたいという思いで高校生ファシリテーターとして今回の生徒会サミットに参加しました。」

■「僕は中学生だったときに名古屋市生徒会サミットに出会いました。そしてうれしいことに中学校卒業後も高校生実行委員会としてサミットの運営に関わらせてもらっています。」

■「私は今まで、生徒会サミットに3回参加させていただきました。今回は高校生実行委員会としてサミットに参加しました。最初の語りは緊張しましたが中学生が真剣な顔つきで聞いてくれたので良かったです。」

また、今回は4つのテーマの熟議の進め方を高校生ファシリテーターが考え、前日のファシリテーター研修会で中学生ファシリテーターと打ち合わせを行いました。ファシリテーターとして場をつくることにも多くの学びがあったようです。

<高校生実行委員の感想>

■「担当した SNS のグループでは具体的なプランを決めることよりも話し合いに重きを置いて進めてきました。中学生のみんなが本当に深く熟議をしてくれて、そういう方式をとって良かったです。SNS の悪い面だけでなく良い面に着目して対策を考えたり、依存とはどういうことなのかを改めて自分たちで考え直したりそういう熟議ができたことを誇らしく思っています。そんな素晴らしい熟議の成果を中学生のみんなと先生方がプラン実現という形で広めてくれることを楽しみにしています。」

■「思ったことを口にする、というのはどうしてもその雰囲気ができるまで時間がかかることが多いので、今日はどうなるのかと不安なところもあった。しかし、グループのファシリテーターたちのリードや参加した人の気持ちが揃っていたことで、早い段階から良い雰囲気で熟議をすることができた。こんなに熱の高まった環境での熟議を経験できたことはこれからの自分の活動の色々なところで生きてくると思う。」

■「高校生実行委員会と中学生の距離は時間が経つにつれてだんだんと近づいて、とても良い雰囲気でした。活動報告書がとても楽しみです！自分自身、とても楽しめたし、たくさんの事を学ぶ事ができました。」

■「今回高校生ファシリテーターとして参加してみて、もっとこうの方がよかったと思う点もいくつかありましたが、それでも私自身は精一杯取り組むことができました。サミット本番まで同じ高校生ファシリテーターの子達と色々なことを想定・考えながらしている時間はとても貴重な経験となりました。」

■「今、中学生のみなさんにはぜひとも新しいことに挑戦しようとする気持ちを持ってもらいたいと思っています。もし何かやりたい活動があるのならば、僕たち高校生実行委員会や周りの大人はきっと協力してくれます。生徒会サミットがさらに多くの人の学びの場となることを願っています。」

当サミットの目的でもある未来の名古屋、また、未来の日本を担うリーダー育成はゆっくりでも、じっくり進んでいることを実感しています。

また、当サミットには毎回陰で支えてくれた大学生サポーターの存在もあります。現在大学4年生の2人の大学生は今回が最後のボランティアとなります。以下はサミット終了時に寄せてくれた感想です。

<大学生サポーターの感想>

■「2014年度より3年間この名古屋市生徒会サミットに携わってきましたが、特に今年度は本サミットの可能性が飛躍的に広がったと感じました。それは昨年度参加した中学生達が、今年度は高校生実行委員として戻ってきてくれたことにあります。サミット後の自らの成功及び失敗体験を元に、今年度はどのような熟議にしようかを、建設的に話し合う一歩成長した彼らの姿に本サミットの意義を強く感じました。リーダーとして試行錯誤を繰り返しながら経験を積み成長する彼らと共に、また本サミット自体も成長していくというこの良いサイクルが、長期的にこの名古屋市をより素敵な街にしてくれると確信しています。自分自身、参加者の1人として3年間この名古屋市生徒会サミットに携われたことを誇りに思います。来年からはこのサミットの卒業生として、また一人の社会人として、中高生の子達と共に語り描いた社会づくりに精一杯挑戦していきたいと思います。」

■「私は、2015 年度、2016 年度と生徒会サミットの運営のサポートをさせていただきました。運営とはいっても、やる事はただ見守ることです。ほとんど何も教えることもなく、自分より 10 歳近く年下の中学生たちの自主性に任せ、大規模なアクションプランの作成～実行を行うことに、初めは不安を感じました。しかし、大人をも唸らせるような深い議論を展開する中学生たちの能力の高さに驚き、彼らが将来成し遂げることに大きな可能性を感じました。また、私自身もサミットを通して自主性の大切さに改めて気づくことができ、成長させていただきました。そして、こういった貴重な機会の実現の裏には、様々な立場の方のお力添えがあることも学びました。私も含め、中学生たちへの期待を共有している大人たちで、これからもこのサポートを続けていくことが大切だと思います。」

現在高校 1 年生の高校生実行委員が、大学生になったとき、また、社会人になっても、脈々と後進を育てて行くことができるように、この事業の継続の意義をこれからも伝え続けていく所存です。

最後になりましたが、当サミットにご協力をいただき、支えてくださっている現場の先生方をはじめ関係各位に改めて感謝申し上げます。

今後とも当サミットにご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2016 年 11 月 21 日

教育支援協会東海専務理事 西尾真由美

名古屋市中立中学の生徒会役員が身近な課題「サミット」(NPO 教育支援協会東海主催)が二

市立中の「生徒会サミット」 13校役員 防災など議論



テーマ別に班に分かれて議論する市内の中学校生徒会役員ら＝昭和区御器所通3の市高齢者就業支援センターで

十九日、市高齢者就業支援センター(昭和区御器所通三)であった。四回目となる今年

は、市内十三校から六十二人の生徒会役員が参加。防災や会員制交流サイト(SNS)を使用する際のリテラシーなど四つのテーマごとに班に分かれて議論を深めた。

防災をテーマにした班では「防災用品を日頃から準備できてい

るか」「地域の人の交流が少ないのでは」といった課題を共有し、解決策を議論した。

将来を担うリーダーを育成しようと始めた取り組み。今回は、協会の担当者に代わり、これまでのサミットに参加した高校生が企画や運営を担った。話し合った解決策はサミット終了後に各校に持ち帰り、実践するという。

(朝国聡吾)

中日新聞 平成 28 年 10 月 30 日掲載